

技術的ショックが労働時間と職業の分極化に及ぼす影響

米倉頌人[†]

2014年1月21日

概要

本稿の一つ目の目的は、代表的個人を想定する経済で、正の技術的ショックが一人当たりの総労働時間を増加させるのか、それとも減少させるのかを実証的に明らかにすることである。Gali(1999)を嚆矢として、アメリカのデータを用いたいくつかの研究では、正の技術的ショックは一人当たりの総労働時間を減少させることを示しているが、G7を対象に同様の分析を行った Gali(2005) では日本においては、引き上げるという結論を得ている。本稿では日本においても技術水準の上昇は労働時間を増加させることを示す。二つ目の目的は異質的個人を想定する世界において、技術的ショックが職業の分極化を促すか否かを実証的に明らかにすることである。本稿では負の技術的ショックは high-skill な労働者の労働時間を増やし、middle-skill な労働者の労働時間を減らすことにより、job-polarization を引き起こすことも示した。

* 稲葉大、佐々木勝、谷崎久志、山田克宣各氏と 2013 年 DSGE カンファレンス、第 22 回関西計量経済学研究会の参加者の方々に大変有意義なコメントを頂いた。ここで感謝を記す

† 大阪大学経済学研究科博士前期課程二年 pge032ys@student.econ.osaka-u.ac.jp